

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組39	多様な課題に対応した学習機会の充実	担当課	生涯学習課
------	-------------------	-----	-------

○地域の課題解決に向けた「課題解決支援講座」など、社会情勢の変化に即した多様な学習機会を提供します。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的課題解決支援講座として、公募により決定したみどり市笠懸町で、地域課題の解決・地域づくりに向けた研修会を開催した。 ・全3回の講座に、延べ105人の職員・地域住民が参加した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地元大学と連携した講座とすることで、幅広い世代の意見交流を行うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講座終了後の関係者と連携した地域の課題解決に向けた取組を継続する。

○県内各地で開催される講座や講師人材のデータベースなど、県民ニーズに対応した学習情報を提供します。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の講座やイベント、講師人材にかかるシステム「まなびねっとぐんま」の管理、運営、広報を実施した。「まなびねっとぐんま」には毎年3,000件程度の講座・イベントの登録がある。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・県民へ多様な学習情報を提供することができ、生涯学習の参加に役立てている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の参加を促す学習情報を充実させる。 ・講座・イベント情報を登録する団体数を増加させる。

○効果的な講座の開催や学習情報の提供を行うため、公民館や高校、大学など関係機関との連携を推進します。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的課題解決支援講座(地域編)において、効果的な講座を実施するため、桐生大学短期学部と連携し4名の学生が参加した。世代間の意見交流の機会を設定した。【拡充】
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と地元大学生との意見交流を通して、大学と地域との連携や学生の地域での活動について方向性を共有することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の抱える課題に応じた、大学の研究成果を活用する。

○県民の学習成果を地域で生かすことができるよう、自主企画講座の開催に関する情報発信や、講師情報の市町村への提供等を支援します。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や団体が主催する講座・イベント(364)や講師情報(90人)を「まなびねっとぐんま」に登録した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する多様な情報発信をすることで、県民の学習成果を活用する環境整備ができています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・まなびねっとぐんまの認知度を向上させる。

○市町村や社会教育団体等と連携し、障害のある人と障害のない人が共に学ぶ機会を充実します。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県特別支援学校PTA協議会大会において、児童生徒の自立に向けた支援のあり方をテーマに情報交換や講演会などを実施する経費を補助した。(90千円) ・県立図書館において、視覚障害者等用図書として大活字本を購入した。(149千円、47冊)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用をテーマにした講演会では、県内の学校関係職員などの多くが熱心に聞き入り、ノーマライゼーションの意識を高まりを感じることができた。 ・視覚障害者等も利用しやすい読書環境の整備を進め、学ぶ機会の充実が図られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の生涯学習推進に向けて、各分野の関係機関との連携に取り組む必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組40 社会教育施設の有効活用 担当課 生涯学習課、文化振興課、私学・子育て支援課

○社会情勢の変化に即し、生涯学習の拠点として多くの県民に活用されるよう適切な施設運営に取り組みます。

令和元年度の取組実績
 ・県生涯学習センターでは、3月に新型コロナウイルス感染症対策の臨時休館があったものの、入館者数は255,364人と対前年度比97%を確保した。（2月までの比較では対前年度比104%）。

成果
 ・生涯学習推進の拠点施設として、県生涯学習センターが多くの県民の学習ニーズに応えている。

課題
 ・今後の施設のあり方や運営体制について検討を進める必要がある。

○多様な県民ニーズに対応できるよう、施設職員の資質の向上及び施設・設備の計画的な更新・修繕に取り組みます。

令和元年度の取組実績
 ・生涯学習センターの利用者の安全のため、劣化していた体育館床の部分補修など各種修繕を実施した。
 ・施設劣化の状況を把握するために必要な定期点検を実施した。

成果
 ・施設や設備の欠陥、不備等による事故発生はなかった。
 ・点検結果から施設の現状や問題点を捉え、次年度の修繕要望に反映した。

課題
 ・施設設置後30年以上経過し、補修を要する箇所が多く、利用者の安全とニーズを踏まえ、計画的に補修及び整備を行う必要がある。
 ・多様な県民サービスに対応できるよう、施設職員の資質の向上を図る。

○ぐんま天文台では、大型望遠鏡による天体観察などの本物体験の提供と、きめ細やかな教育普及活動を通して、天文・自然科学への興味・関心を高め、天文学のすそ野拡大を推進します。

令和元年度の取組実績
 ・大型望遠鏡、天体観測イベントを実施した。
 ・教育普及活動として、学校への出張による授業支援の他、県立社会教育施設や美術館、保育園等での講演、講座等のイベントを実施した。（台外イベント参加者数1,855人〔前年比111%〕）

成果
 ・学校や地域と協働し多様な学習機会を提供することで、天文・自然科学への興味関心を高めることに貢献している。

課題
 ・利用者の安全、利便性に配慮した施設運営管理を行う。
 ・学校や、県内関係施設（社会教育施設、美術館等）と連携した台外事業の拡充を行う。
 ・インターネットを活用した情報発信の充実を図る。

○ぐんま昆虫の森では、身近な昆虫との触れ合いや自然体験を重視したプログラムの提供を通して、生き物相互の関わり合いや、生命の大切さ、自然環境に対する理解を深められるよう取り組みます。

令和元年度の取組実績
 ・季節展や特別展、飼育講座等を実施した。
 ・効果的な学校利用を促進するための教育補完施設としての機能・役割を維持した。（小学校285校利用）
 ・県民参加による施設づくりを実践した。（解説や体験指導ボランティア104人）

成果
 ・自然体験など様々な体験活動の場を提供することにより、子どもたちの自然環境に対する理解を深めることに貢献している。

課題
 ・施設の特徴を生かした、季節展や特別展等の主催事業プログラムのさらなる充実を図る。
 ・出前講座の開催等、所外にも積極的に出向き、県民に自然体験活動の機会を提供していく。
 ・インターネットを活用した情報発信の充実を図る。

○近代美術館では、日本と西洋の近・現代美術を中心に幅広い美術品の収蔵・展示、優れた美術の鑑賞機会を提供する企画展の開催や、教育普及活動の充実などに取り組みます。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：74,224人 ・教育普及事業参加者数：10,109人 ・来館者満足度：95%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・展示事業では、くまのパディントン展など計4本の企画展を開催したほか、コレクション展示では概ね2か月に一度所蔵作品の展示替を行った。 ・教育普及活動では、46校の学校を受け入れるとともに、子どもアートツアー、作品解説会、こども+大人+夏の美術館、美術館アートまつり等、さまざまな事業を行った。 ・フェイスブック、ホームページをはじめ、美術館ニュースの発行などにより情報発信を行った。 ・将来の作品収集や企画展につなげるため、調査研究を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、展示・教育普及事業等の質の向上、来館者数の維持、来館者満足度の水準確保に努める必要がある。

○館林美術館では、「自然と人間」をテーマに作品を収集・展示するとともに、学校教育との連携、幅広い年代層に向けた講演会やワークショップなどの教育普及事業などに取り組みます。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：57,722人 ・教育普及事業参加者数：6,178人 ・来館者満足度：99%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「ピカソ展ゲルニカ[タピスリ]をめぐる」は、館林美術館と近代美術館の所蔵作品のこれまでの研究成果を発展させ、他館の作品を有効に活用しながら当館にしかできない展覧会とすることができた。 ・多彩な関連イベントの成功に加え、学校訪問数が近年になく多かったのも特筆すべき事柄である。 ・財政上の苦労が多い中、危険すれすれの攻防で節約に努め、県民のニーズに応えることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・好調な企画展の後に空調工事による休館となり、良い循環が途切れてしまうため、次年度以降しばらくの努力が必要となる。

○歴史博物館では、東国文化の中心であった群馬の特色をアピールするとともに、展示室でのタイムリーなトピック展示や企画展の開催、小・中学校の歴史教育での利用促進を行います。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：110,152人 ・教育普及事業参加者数：41,897人 ・来館者満足度：95%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開館40周年を迎え、3回の企画展と特別収蔵品展、4回のテーマ展示を実施した。特に企画展では「新田義貞」「埴輪」「土偶」と、知名度の高い資料をテーマとし、前年度比124%の入館者数を実現することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年3月には当館展示資料「綿貫観音山古墳出土品」の国宝答申があった。令和2年度は、これらをより積極的に活用した情報発信を実施していきたい。

○自然史博物館では、地球の誕生から現在まで約46億年の生命進化の歴史や本県の豊かな自然をジオラマ等で紹介するとともに、観察会など各種教育普及事業等に取り組みます。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：267,860人 ・教育普及事業参加者数：63,206人 ・来館者満足度：90%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の企画展を計画したが、新型コロナウイルスの感染予防のため令和2年3月から臨時休館した。 ・2月までは昨年度並みの入館者数を確保することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、開館に向け感染予防策を徹底し、安心・安全な博物館として入館者を受け入れていきたい。 ・普及事業等においても同じく安全なメニューの開発を進めたい。 ・入館者増に努めながらも、新たな展示方法の検討、安心・安全な教育普及事業のメニュー開発を行いたい。

○土屋文明記念文学館では、本県ゆかりの文学資料の収集・研究、魅力ある企画展や文学講座の開催、学校と連携して短歌を中心とする文学に関する教育普及活動などに取り組みます。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：32,149人 ・教育普及事業参加者数：15,085人 ・来館者満足度：95%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第104～107回企画展（年間計4回）を開催した。 特に第105回「みんなの『ごんぎつね』」展は親子で楽しめるイベントを開催して好評だった。 ・教育普及事業（抜粋） 「歌人が学校に！」、短歌教室 実施23校、参加2,283人(延べ) 児童生徒短歌展 1回、参加2,041人 出張授業（学校連携） 1回、66人 おはなしの部屋、ミニシアター 期間：7～9月、参加762人(延べ)
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も来館者目線で、より魅力的な展示及びイベント等を実施したい。 ・動画配信等にも力を入れながら文学全般の魅力を県内外に発信したい。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組41 読書活動の充実と県立図書館の機能強化 担当課 義務教育課、高校教育課、生涯学習課

○全ての県民の読書活動を支援するための環境整備を推進します。

令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館横断検索システムの運営を行った。(利用回数257,325回) ・相互貸借システムの運営を行った。(利用冊数14,842冊) ・図書館未設置町村の公民館図書室に対する図書一括貸出を行った。(利用冊数9,750冊) ・円滑な物流のための市町村支援協力車の定期的な運行・居住地返却を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館横断検索や相互貸借のシステム運営により、県内各地の所蔵資料を幅広く利用していただくことができ、図書館の利用が促進され、県民の読書環境が向上した。 ・図書一括貸出の実施により、人口の少ない地域住民へ利用可能な図書数を増やすことができ、選書の選択肢を広げることに役立った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館横断検索や相互貸借システムの周知を行う。

○子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、学校、家庭、地域で連携した取組を進めます。

令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高等学校ビブリオバトル2019群馬県大会を開催した。(参加者147人) ・ぐんま読書フェスティバルを開催した。(観覧者143人)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高等学校ビブリオバトル2019群馬県大会の開催により、県民に高校生の読書活動について関心を持っていただくことができた。また、高校生にとっては、それぞれの読書体験を交流する場となり、読書を楽しもうという機運を高めることができた。 ・ぐんま読書フェスティバルの開催により、子どもから大人まで読書活動推進の機運を高めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域における読書環境を整備する。

○県民にとって身近な市町村立図書館(室)の充実を図るため、図書館ネットワークの中核館として県立図書館による支援を実施します。

令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・相互貸借担当者会議を実施した。(参加者74人) ・公共図書館のための学校支援講座を行った。(参加者24人) 【群馬県図書館協会事業】 ・図書館(室)職員初級研修を実施した。(参加者63人) ・図書館(室)職員実務研修を実施した。(参加者71人) ・群馬県図書館大会を開催した。(参加者320人)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実務的な内容を学ぶための研修会や図書館運営等について見識を広げるための県図書館大会を実施したことにより、県内公共図書館職員へ日頃の業務に役立つ内容や知識等を習得させることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の公共図書館・図書室、大学図書館、学校図書館のネットワーク化を推進する。 ・県内公共図書館職員の資質向上及び図書館サービスの向上を図る。

○県立図書館における県民の課題解決につながる高度な専門的情報サービス（レファレンスサービス）を提供する機能を充実します。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・高度で専門的な調査・研究に対応するため、新たに642冊の専門的資料を受入・整備した。 ・職員のスキルアップを図るため、類縁機関の視察や館内研修を実施した。 ・通常のWEB検索では入手できない情報が手に入る商用データベースを提供した。 ・県内市町村立図書館や学校図書館等で解決できない難解かつ高度なレファレンス事案を81件受付・回答した。 ・群馬県関係のレファレンスに役立つように、当館独自の調査相談事例・郷土人物データベースに新規事例等を371件公開した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・調査相談機能が強化されたことで、図書館利用者へ質の高いサービスを提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・主幹専門員から新任職員へ「レファレンス技術・知識」の承継等、人材の育成を行う。 ・市町村立図書館及び学校図書館等への協力レファレンスの更なる推進を行う。 ・若年層へのレファレンスサービスの周知を行う。

○身近な読書環境の一つとして、県立高校における学校図書館の一般開放を行います。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立高校61校中52校で一般開放を実施した。 ・延べ5,601名の利用（来館）があった。 ・373冊の貸出があった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校として地域に貢献することができた。 ・学校図書館の一般開放を通して学校の教育活動を幅広く理解してもらうことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者以外の方が来校するため、生徒の安全確保について課題がある。 ・地域の図書館が充実しており、利用者がほとんどいない学校もあった。

○司書教諭や学校図書館職員の専門性を高め、児童生徒が興味・関心を持って積極的に利用するような学校図書館づくりを推進します。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」において、各教科における学校図書館を利用した指導、学校図書館の整備・充実や公立図書館を実践した。 ・「学校図書館充実事業」の公開授業を草津中学校を会場に行い、全県から学校図書館関係教員、管理職、公立図書館職員等に対して、2年間の研究報告を周知した。 ・学校図書館研修会を実施した。（参加者43人） ・先生のための学校図書館活用講座を開催した。（参加者28人） ・学校司書のための学校図書館活用講座を開催した。（参加者39人）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業には、県内各地から70名超の参加者があり、実際の授業参観だけでなく、各教科の活用資料が示され、参加者からは自校でも実践したいという声が多く見られた。 ・県教委HPに学校図書館年間活用計画、授業実践（16実践）を掲載した。 ・有識者による講義や具体的な演習により、学校図書館の利活用について役に立つ内容を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校の取組についてHPで公開しているものの、多くの学校にいかに関知していくかが課題である。 ・今後も、講師の選定や内容を工夫しながら、継続して研修会や講座を開催していく。

○学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の一層の充実を図り、各教科・科目等における学校図書館を利用した指導や、日常生活における読書活動を推進します。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」において、各教科における学校図書館を利用した指導、学校図書館の整備・充実や公立図書館を実践した。 ・「学校図書館充実事業」の公開授業を草津中学校を会場に行い、全県から学校図書館関係教員、管理職、公立図書館職員等に対して、2年間の研究報告を周知した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業には、県内各地から70名超の参加者があり、実際の授業参観だけでなく、各教科の活用資料が示され、参加者からは自校でも実践したいという声が多く見られた。 ・県教委HPに学校図書館年間活用計画、授業実践（16実践）を掲載した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校の取組についてHPで公開しているものの、多くの学校にいかに関知していくかが課題である。

施策の柱 1 8 における指標の状況、令和 2 年度の方向

指標の状況

指標		策定時		目標値	2020. 4 月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合や数値に大幅な上下があった場合等、説明を記入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「まなびねっとぐんま」トップページのアクセス件数		58,798件	2017	73,800件	53,440件	2019	-35.7%	H29から有料の民間カルチャーセンターを連携講座に登録しないこととしたため、県民カレッジの入学者数やまなびネットへのアクセス数が減少している。
昆虫の森、天文台の入場者数（2所の合計）		145,110人	2017	148,000人	154,307人	2019	318.2%	
県立図書館におけるレファレンスサービス件数 (事柄や事実調査、文献調査等の専門的情報提供サービスの件数。利用相談(書架案内や所蔵調査)は除く。)		6,867件	2017	7,700件	5,567件	2019	-156.1%	図書館HP「調査相談事例・郷土人物データベース」の利用増により窓口相談が減少した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月9日～31日まで臨時休館した。

令和 2 年度の方向

- ・「まなびねっとぐんま」に掲載している講座・講師の情報をより活用しやすくするため、データベースやHPを改善する。
- ・レファレンス資料の収集や「ぐんまオンライン相談予約システム」の活用など調査相談体制の充実を図る。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組42	地域の学びを支える人材づくり	担当課	生涯学習課
------	----------------	-----	-------

○人権教育や青少年教育等、各分野における指導者の育成を進めます。			
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教育事務所ごとに「群馬県人権教育の基本方針」「群馬県人権教育充実指針」に基づいた人権教育を推進するために必要な事項の研修や協議を計10回実施。1,249名を養成した。 ・地域青少年活動指導者や青少年団体指導者等を対象に、青少年会館において指導者養成講座を実施した。（青少年指導者専門講座、リーダー指導者研修会、市町村青少年教育担当者研修会）3講座の合計参加人数：83人） 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各事務所が実施する研修会では、講演会形式だけでなく、人権について活動を通して気づいたり発見したりする参加体験型学習の研修会を多く取り入れることで、学習者が主体的に考え、活動する場面が多く見られた。 ・参加者自らの課題の解消につながっただけでなく、参加者同士の交流を深めることもでき、新たなネットワークを構築することができた。（3講座の合計参加人数：83人） 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成の充実と資質の向上を図る。 ・「群馬県人権教育充実指針」の11の重要課題に計画的に取り組む必要がある。 ・現場のニーズを十分把握したうえで講座を企画し、内容の充実と共に参加者の増加を図る。 		

○育成した指導者が、公民館や学校等地域で活躍できるよう、市町村等に働きかけます。			
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別人権教育指導者研修会において、市町村担当者に対し、指導者の積極的な活用について依頼した。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の活用に関して、活躍の場の設定や指導者の意識に課題があることを市町村担当者と共有できた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・育成した指導者の活用に向け、市町村への支援について県で検討をする必要がある。 		

○社会教育主事、社会教育委員、市町村担当職員等、社会教育の中核となる人材の資質能力を向上させます。			
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育の推進に向けて、県市町村社会教育主事及び関係施設職員等を対象に、県社会教育主事等職員研修会を実施した。（参加者85人） ・社会教育委員の資質向上に向けて、県市町村の新任社会教育委員等を対象に、新任社会教育委員研修会を実施した。（参加者131人） ・生涯学習社会の構築に向けて、県市町村社会教育委員、生涯学習・社会教育関係団体の関係者、社会教育行政関係者等を対象に、県社会教育研究大会を実施した。（参加者231人） 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育主事や社会教育委員等を対象とした各種研修会において、現在期待される社会教育の役割や県内外の先進事例について、講演や事例発表、グループワークによる協議など効果的に研修することで、社会教育の中核となる人材の資質能力の向上につなげることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県全体の社会教育をさらに推進するため、社会教育関係職員を対象とした各種研修をより系統的かつ効果的な研修になるよう工夫する必要がある。 		

○福祉などの社会教育に関係深い部局との連携や市町村における社会教育の振興を図るとともに、各社会教育関係団体の育成及び団体間の連携を進めます。			
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係団体に対して活動の充実を図るための事業費補助を行った。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における社会教育活動の活性化が図られるとともに、県が実施する社会教育推進上の諸施策にも積極的に協力していただいた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化に伴う団体活力の低下を防ぐ。 		

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組43	青少年教育の推進	担当課	高校教育課、生涯学習課、生活こども課
------	----------	-----	--------------------

○自然体験や各種体験活動を通じて、青少年の豊かな人間性や社会性を育みます。	
令和元年度の取組実績	・ 県立青少年自然の家3所にて、林間学校等で利用する学校等に対し各種プログラムを提供した。 提供プログラム：野外炊事、キャンプファイヤー、登山、クラフト作成等 学校等利用団体数：417団体
成果	・ 青少年自然の家の管理運営を通して、生活体験や自然体験など様々な体験活動の場を提供することにより、子どもたちの「生きる力」の育成に貢献している。
課題	・ 自然環境及び地域の伝統・文化等、各所の特色を生かし、各事業のプログラムの充実を図る。 ・ 学校や青少年団体、企業等の利用拡大に向け、各種メディア（ウェブサイト、チラシ等）を効果的に活用し、広報活動の充実を図る。

○親子や異年齢・異世代での体験活動・集団活動を通じて、家庭や地域の教育力の向上を目指します。	
令和元年度の取組実績	・ 県立青少年自然の家3所にて青少年自然体験事業を実施した。 親子体験活動（親子キャンプ、登山、星空観察等）参加者数 延べ452人 自然体験活動（オープンデー、冬期ホリデー、出前講座等）参加者数 延べ2,400人 宿泊自然体験活動（3泊4日程度の長期キャンプ）参加者数 延べ118人
成果	・ 青少年及びその保護者を主たる対象として、様々な自然体験活動を提供することにより、青少年の主体性や協調性、社会性、問題解決能力等「生きる力」を育成するとともに、家庭や地域の教育力向上にも資することができた。
課題	・ 各所の特色を生かし、キャンプやオープンデー等の主催事業プログラムの充実を図る。 ・ 出前講座の開催等、所外にも積極的に出向き、県民に自然体験活動の機会を提供していく。

○青少年のボランティアを養成するとともに、ボランティア活動の場を提供します。	
令和元年度の取組実績	・ 県立青少年自然の家3所にて以下の事業を実施した。 青少年ボランティア養成 延べ52人受講、青少年ボランティア体験 延べ331人参加 ・ (公財) 県青少年育成事業団による指定管理事業を行った。 ボランティア体験講習会 延べ17人参加、中学生・高校生交流ボランティア体験 延べ28人参加
成果	・ ボランティア活動の心構えや留意点等について講義・演習を実施するとともに、ボランティア活動の場を提供することにより、社会の構成員としての規範意識や責任感、倫理観等を身に付けた青少年ボランティアの育成に資することができた。
課題	・ ボランティア養成では、各所の自然環境等を有効に活用し、講義・演習のプログラムについて充実を図る。 ・ ボランティア体験では、より多くの中高生が参加しやすいような実施時期及び日程を検討する。

○不登校、非行、ひきこもり等、様々な悩みを抱える青少年及びその保護者等を対象に、相談活動や体験活動を通して自立・再学習支援事業を行うほか、青少年の意欲を高め、自立を促す活動プログラムを効果的に実施します。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年自立・再学習支援事業（G-SKY Plan）を実施した。 相談等延べ件数 1,021件、体験活動実施数 14人（延べ27件）、進路相談会 2回開催 ・学びを通じたステップアップ支援促進事業を実施した。 学習相談 620件、学習支援 計76日実施、参加延べ人数138人 ・子ども・若者支援協議会において相談を受けるとともに、高校中退者等訪問支援事業により支援員を派遣し、青少年及びその保護者等に寄り添う支援を行った。（訪問支援継続中19件（うち観察対象6件））
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援を継続的に行うことで、復学や進学、高卒認定試験の受験等につながった利用者も見られた。相談活動・体験活動・学習支援等の提供を通して、当該青少年の自立や保護者への支援に資することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外出ができない引きこもり状態の利用者に対して、本人の希望に沿った形での相談方法を検討していく。また、必要に応じて関係機関と連携を図りながら支援を行っていく。 ・支援を必要とした若者が本事業につながるよう、広報活動を充実させ事業周知に努める。 ・関係機関が連携した、切れ目のない支援が必要である。

○青少年関係団体の活動の活性化を通じた青少年健全育成を目指し、県内全域で活動する青少年団体との連携や団体への支援を行います。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育（青少年教育）関係団体事業費補助金を実施した。 （青少年教育関係3団体（日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども会育成連合会）における活動に対して補助金を助成。（総額1,386千円：備前補助金）） ・群馬県子ども会育成連合会、群馬県（文化振興課）と共催で上毛かるた競技県大会を開催した。（負担金500千円を負担） ・青少年健全育成に係る事業の実施（延べ2,274人参加）、指導者育成（42講座延べ1,808人参加）を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども会育成連合会への補助金による支援を通して、青少年健全育成の一助とすることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織に属していない一般の青少年も参加可能なイベントの実施について、推進していくことが望ましい。

○中・高校生が将来の家族形成を含めた人生設計を考えるため、自らのライフデザインを考える機会の創出に取り組みます。	
令和元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザインセミナー（県職員による出前講座）を実施し、県内の高校等に、ライフデザインについて学生が主体的に考える機会を提供した（高校等3か所）。 ・ライフデザイン支援事業費補助金により、民間団体等が行うライフデザイン支援の取組に係る経費を補助した。（1団体25万円以内：8件） ・家庭科の授業において、青年期の自立や課題、子供や高齢者の生活と福祉などの学習を通して、様々な人々に対する理解を深めることができた。 ・家庭や地域社会の果たす役割や、共に支え合って生きる社会重要性等、ライフデザインについて考えさせることができた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーの参加者アンケートで「将来のイメージが描けた」と答えた学生の割合：81.7% ・民間団体等の取組を補助することで、ライフデザイン支援の重要性について県内全域へと普及を推進することができた。 ・人の一生の各ライフステージの特徴と課題について理解し、自立した生活を営むための意思決定やライフデザインの在り方について、将来の生き方の構想を描くことができた。 ・家庭や地域社会の果たす役割、共に支え合って生活することの重要性について認識することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高校生が「キャリアデザイン」に比べ、自らの「ライフデザイン」を考える機会はいまだ充分であるとは言えないため、さらに様々な機会の創出を進める必要がある。 ・自己実現、将来の家庭生活などについて考え、自立や家族・家庭の在り方、子供や高齢者の生活などについて理解し、共に協力していくことの重要性を理解する必要がある、引き続き継続して実施する必要がある。

施策の柱19における指標の状況、令和2年度の方向、基本施策8に対する点検・評価委員会の主な意見、全体に対する点検・評価委員会の主な意見

指標の状況

指標		策定時		目標値	2020.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合や数値に大幅な上下があった場合等、説明を記入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「青少年ボランティア養成事業」に係る事業への参加者数（県立青少年自然の家3施設＋青少年会館の合計）		584人	2017	650人	456人	2019	-194%	例年、参加していた団体の参加がなくなり、数値が下がった。

令和2年度の方向

- ・ボランティア養成事業では、各所の自然環境等を有効に活用するとともに、ボランティア活動を行う際の心構えや留意点等、受講者がボランティアの基礎を一通り学べるよう、講義・演習のプログラムについて充実を図る。
- ・ボランティア体験事業では、中高生が参加しやすいように主催事業及び夏季休業中だけでなく、秋から冬にかけての土日にも募集を行う。また、参加者の希望で帰るか宿泊かを選択して参加できるようにする。
- ・ボランティア活動に興味がある若者が情報を得られるように、広報活動を充実させ事業周知に努める。

基本施策8に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

- ・県立図書館において、図書館横断検索システムや相互貸借システムの運営を行うことで、県内各地の図書館の利便性が向上している。
- ・「全国高等学校ビブリオバトル」により、読書に対する関心が高まっており、高校生以外の世代に対しても波及しつつある。
- ・各社会教育施設において、様々な工夫が図られている。特に、ぐんま昆虫の森及びぐんま天文台については、入場者数が大幅に増加しており、地元から愛される施設づくりが進められている。
- ・自然体験等の体験活動を通し、子どもたちの生きる力が育まれている。今後も、プログラムの充実を図りながら、事業に取り組んでほしい。

課題

- ・ボランティア活動の機会充実を図り、ボランティアの育成に引き続き取り組むこと。

全体に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

- ・子どもを取り巻く多様な課題に取り組んでいる。教員だけでは解決できない課題も増えてきているため、専門家等を活用しながら、中長期的な視点で各施策を継続してほしい。

課題

- ・教育のICT化に向け、教員のICT活用力の向上を図るとともに、教員向けのデジタルコンテンツの充実について検討を進める必要がある。
- ・学校と地域との連携・協働が、教員の多忙化解消にもつながり、教師の魅力向上、教員志望者の増加、学校教育の質の向上、地域の活性化という好循環につながるという展望を持ちながら、各取組を進めてほしい。